

地域子育てネットワークだより

平成 30 年 8 月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課 電話:(078)341-7711 内線 2798

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html

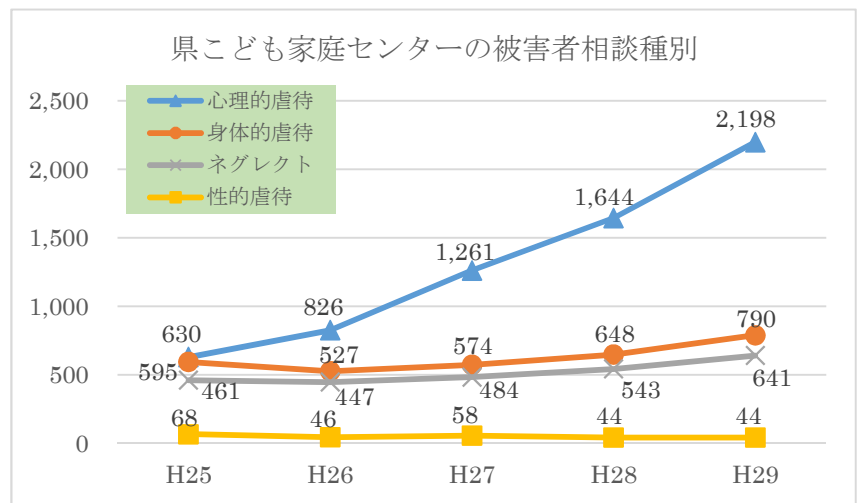
こども家庭センターへの児童虐待相談件数が前年度より増加

平成 29 年度に県こども家庭センター（中央、西宮、川西、姫路、豊岡）が受け付けた児童虐待相談件数は 3,673 件で、前年度から 794 件（27.6%）増加しました。

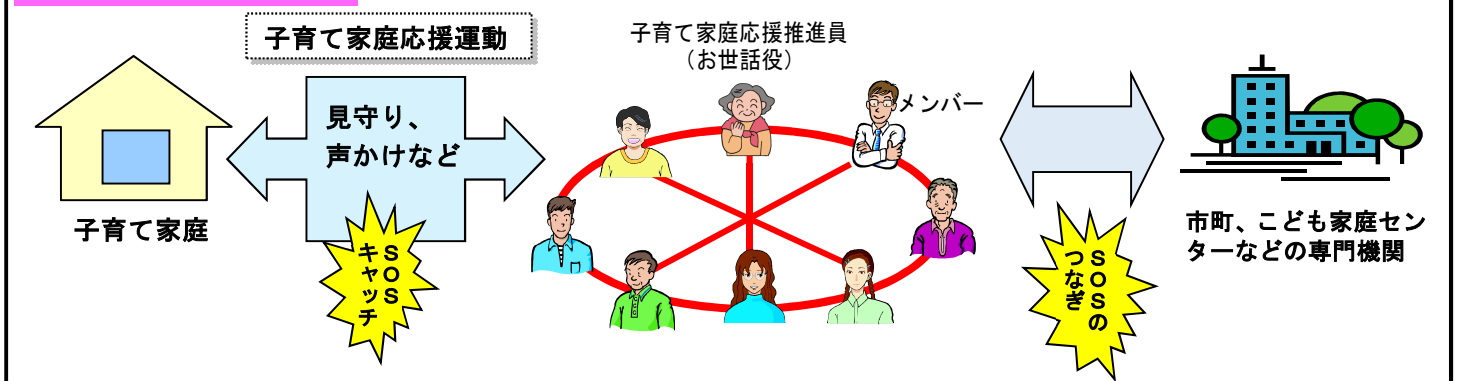
虐待の被害を受けているのは小学生以下の子どもが約 8 割を占めています。虐待の種類としては「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」となっており、相談経路は警察からが最も多く、次いで近隣・知人からとなっています。

また、神戸市こども家庭センターが発表した児童虐待相談受付件数(速報値)は、前年度比 26.4%増の 1,548 件で、虐待種別、相談経路の傾向は県と同様となっています。

「子育て応援ネット」が取り組む登下校時の見守り、声かけ、SOS キャッチ活動など地域ぐるみの子育て応援がますます求められています。



子育て応援ネット事業



兵庫県では、子育て応援ネット事業として、兵庫県地域女性団体ネットワーク会議構成団体（17 団体）や、自治会、青少年関係団体、子ども会、PTA 等の地域団体がネットワークを組み、子育て家庭への見守り、声かけ、子育て相談、イベント、登下校時のパトロールなどを行う子育て家庭応援運動を展開するとともに、子育て家庭の親子が発する SOS を子育て家庭応援推進員や活動に賛同するメンバーが受け止め、市町やこども家庭センター、民生委員・児童委員、警察署等の関係機関へ連絡するなどを行っています。

このほか、県では 9 月 10 日から 16 日までの「自殺予防週間」にあたり、各種相談窓口の積極的な啓発を行うとともに、若年層へ向けてのラジオ放送やこころの健康相談等を実施します。

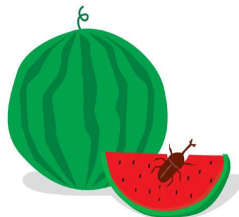
子育て応援ネット の活動紹介

声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の各地の取り組みを紹介します。

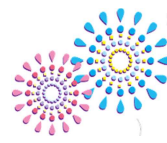
福崎町では、次世代を担う子どもたちに、身の周りの環境問題に関心を持ち、理解を深めてもらうために、「福崎町消費者の会」が中心となって活動しています。活動の主な内容は、町内の小学校を対象とした環境教室やエコ工作教室、石けんの使用推進キャンペーン、夏休み親子教室（環境学習講座）などです。

毎年、6月に行っている環境教室では、紙すきや使用済みハガキを使ったペンケースづくりなどを通して、普段は捨ててしまう物に工夫をこらすことによって、素敵な作品や生活に役立つ物に作りかえることができるということを子ども達が体験する良い機会となっています。

今後も、地域に根ざした活動を通して、子ども達が健やかに生活していけるよう支援していきたいと思っています。



福崎町消費者の会 会長 田中初美



まちの子育てひろば の活動紹介



「スマイリーズ」は丹波市の未就学児のお子さんとママが親子で楽しく体を動かして健康づくりをしようと集まったサークルです。今年で三年目になり、新メンバーも増えました。まだねんねの赤ちゃんも多く、今回のひろばアドバイザーの川島先生のリトミックは赤ちゃんでも楽しむことができましたと思います。

初めは、先生のピアノに合わせておはようのご挨拶。ママ達もしっかり明るい声を出して、笑顔でお子さんたちに声掛けすると良いと教えて頂きました。

先生のピアノと素敵な歌声に子供たちもとても笑顔。ピアノのリズムに合わせて、動物のカードを取ったり、一生懸命考えて、動いていました。

綺麗な色のハンカチやロープ等も使って、目で見て、耳で聴いて、触れて、体も動かして、子供の感性を育てる様々な工夫がされていて、赤ちゃんから大きいお子さんや、ママにとっても楽しい時間になりました。

「スマイリーズ」 代表 藪野 雅子



食の好き嫌いは変化する

県立こども病院名誉院長 中村 肇

連載
第135回



1歳を過ぎ、離乳食も終わりに近づくと、家族と同じ食材を食べる機会が増えてきます。お母さんは、栄養のバランスを考え、色んな食材を取りそろえて食べさせようとしますが、なかなか思うように食べてはくれません。

なんでも口に入れてしまう子もいますが、多くの子は食に対してたいへん用心深く、初めてのものをなかなか口にしません。「甘い」、「塩辛い」ものは好みますが、「すっぱい（酸）」、「にがい（苦）」には敏感です。

食の偏りが原因で栄養不足になるケースは、今の日本ではほとんどありません。偏食があっても、お子さんが機嫌よく、活発に遊んでいれば何の心配もありません。

頑張って調理方法をいろいろと工夫しても、食べてくれないときには、親にも子にもストレスとなります。まわりの家族が美味しそうに食べているだけで、いつの間にか、あなたのお子さんも口にしていますよ。